

新年のご挨拶



一般社団法人軽金属学会
会長 金武 直幸

新年明けましておめでとうございます。本年も会員皆様のみまますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

さて、昨年10月には、本会の特別維持会員であるアルミニウム軽圧メーカーが6社から5社に様変わりし、世界第3位の生産量を誇る軽圧メーカーが国内に誕生しました。素材産業のグローバル化による動きと捉えておりますが、今後も関連業界の様々な変化が予想されます。一方、大学においては、一昨年に文部科学省から大学改革プランが示され、工学のミッションの再定義が問われて、産業のグローバル化など社会の変化に即応できる大学への改革が求められています。このように、本会を取り巻く環境が激動する中で、60余年にわたって培われてきた軽金属に関するオンリーワン学会を次の時代に繋いでいくため、本会の強みを伸ばしつつ、社会の変化に適応できる体質強化について理事会や常設委員会で議論を始めております。その一つの方向性として、軽金属素材の開発製造に加えて二次加工分野および材料ユーザーの観点まで、軽金属の上流から下流までをカバーできる学会として社会に認められるよう、活動基盤の拡大増強を前面に掲げました。

本年は、それらの検討をさらに具体化させて、行動に移していきたいと考えております。その第一は、会員基盤の増強です。会員数減少の問題は工学系学協会すべての課題ではありますが、特に維持会員の減少は財政基盤・活動基盤の弱体化に繋がります。一昨年からの対策案の検討が進められ、その一つとして、関連する中小企業への積極的なアピールの必要性が打ち出されました。中小企業の多くは二次加工業界であり、全国の地方に広がる業界団体が多くあります。そこで、昨年後半から、支部や地方の公設機関の協力を得て、中小企業の技術者と情報交換する企画を始めました。本年は複数の支部で同様の企画を開催して、本会への理解を広げる活動を展開したいと考えています。

第二は、講演大会の充実です。春秋の講演大会は学会の大きな事業の一つであり、国内外に本会の活動をアピールする貴重な機会です。講演大会のプログラムを見れば、その学会の活動範囲や活力がわかると言っても過言ではありません。軽金属に関する唯一の学会としてのプレゼンスをアピールするには、関連するすべての技術分野をカバーし情報交換できる場を提供する必要があります。二次加工分野から材料ユーザーまで、軽金属技術を広くカバーするプログラムを構成できるように、少しずつ新しい試みを進めていきたいと考えています。

第三は、学会誌の充実です。学会誌「軽金属」が薄くなったとの声が聞かれるようになってきました。本会の学会誌は、

論文集と会報の機能が一体となっていますので、論文投稿数を増やすと同時に会報記事の充実も必要であります。論文投稿の増加については、講演大会での発表と連動して大学および企業研究者へ投稿依頼する活動を継続する一方、査読プロセスの改善や原稿作成を支援するプロセスなどを検討したいと考えます。また、会報記事については、読者自慢の写真紹介、維持会員の紹介、関連業界やユーザーの紹介など、気楽に読むことができる掲載記事の充実を進めたいと考えています。

第四は、研究部会の活動です。平成 25 年度は 9 部会が研究・調査事業を実施しておりますが、会員の皆さんは、どのような研究部会がどのように活動しているかをご存知でしょうか。研究部会は、関連学術分野の最新課題、将来課題を共同で研究開発するための重要な事業であり、将来の軽金属分野の発展に大いに寄与することが期待されます。したがって、各研究部会の活動成果を講演大会や学会誌に積極的に情報発信して頂き、会員の皆さんと共有できるようにしたいと考えています。

最後に、国内外の交流です。昨年 10 月に中国 北京で Asian Conference on Aluminum Alloys (ACAA-2013)が開催され、本年 6 月にはノルウェー トロンハイムで 14th International Conference on Aluminium Alloys (ICAA14)が開催されます。ICAA 会議は関連する国際会議として定着し、本会もその運営に貢献してきました。一方、アジアでの国際交流については、以前より本会が、日本、台湾、韓国、中国、オーストラリアの 5 地域での交流の場を提案してきました。本年も 11 月に ALMA (Asian Light Metals Association) Forum を開催し、各地域からの代表者と軽金属研究に関する情報交換を行う予定です。また、国内の他の学協会を始め関連する業界団体とも、双方の強みを出しあい弱みを補完しあえる交流を模索したいと考えます。

昨年の会長就任の挨拶でも述べさせて頂きましたように、社会が軽金属学会に何を求めているかを迅速に見極め、発信して、本会のプレゼンスの向上を図ることが必要です。そのために、本年も先頭に立って取り組んでいく所存でございますので、会員の皆様の積極的なご支援、ご協力をお願い申し上げます。